

### Ⅲ 環境価値の推計

#### 1 水源環境保全施策の経済的評価

本調査では、問8～問10において、環境を改善するために支払ってもよいと思う金額を尋ね、CVMにより、水源環境の保全施策を経済的に評価する試みを行った。

##### \* CVMとは？

CVMとはContingent Valuation Methodの頭文字をとったものであり、日本語では仮想市場評価法や仮想評価法等と呼ばれている。CVMは、環境の便益を享受している受益者を対象にアンケート調査を行い、環境を改善するために支払ってもよいと思う金額、つまり支払意志額 (willingness-to-pay) を直接尋ねる方法である。CVMは世界各国で環境財・サービスの評価に幅広く使用されており、我が国においても1999年以来、公共事業の費用便益分析への適用が急速に進められつつある。

#### 2 調査方法

本県の水源の森林づくり事業や生活排水処理施設整備の取組をこれまでのおおよそ1.5倍に拡充させると仮定し、新たな費用負担の仕組みを導入することに対して、5種類の月間負担額(50円、100円、200円、300円、500円)のパターンに分けて、その賛否を尋ねた。また、この質問に対して賛成すると回答した場合にはさらに高い金額を提示し、それ以外の場合にはより低い金額を提示した(20円～1,000円)。

なお、このような質問方法は二段階二(多)項選択法と呼ばれ、一般的に、支払意志額を適切に把握するため、多く採用されている方法である。

#### 3 評価結果

質問に対する回答結果をもとに統計分析を行い、支払意志額(1世帯当たり)を推計した。支払意志額については、中央値と平均値が試算可能であるが、ちょうど半数の回答者が賛成すると推計される金額である中央値を代表値として算出した。(右図参照)

支払意志額は、「確実に賛成」及び「たぶん賛成」と回答したものを賛成者として推計した数値とし、参考値として「確実に賛成」と回答した人のみによる推計も行った。

なお、1世帯当たり支払意志額に神奈川県全体の全世帯数である3,396,021世帯を掛けることにより、保全施策に対する総評価額が推計される。

##### 【1世帯当たりの支払意志額】

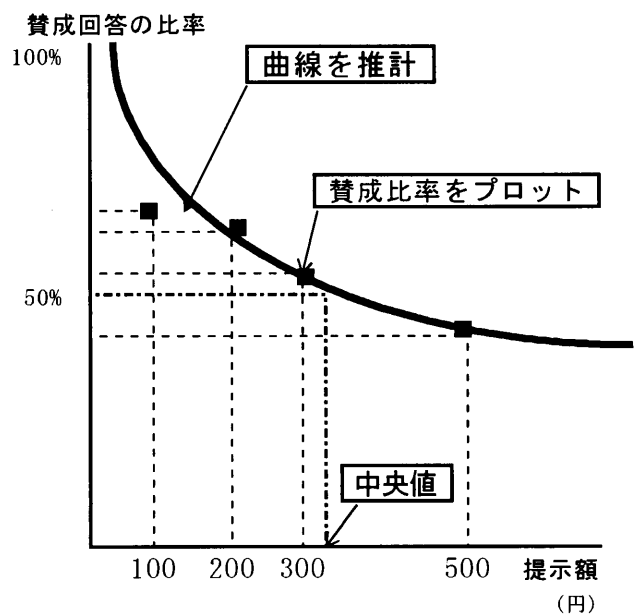
月間306.1円(年間3,673円)

\*「確実に賛成」のみ…月間102.1円

##### 【水源環境保全施策の総評価額】

年間124億7,359万円

\*「確実に賛成」のみ…年間41億6,013万円



##### 中央値と平均値

・平均値は異常値の影響を受けやすく、統計的な信頼の点で中央値が採用されることが多い。  
・一般に中央値は平均値より低く、控えめな評価額とされるが、回答者の半数の支持を受けられるものである。